

平成30年度 山県市少年の主張大会 ～わたしの主張2018～

6月16日、平成30年度山県市少年の主張大会が美山中央公民館で行われました。このうち、優秀賞に輝いた2人の生徒の作品を紹介します。

心をつなぐ

高富中学校1年 大石結心

「ゆうちゃん、よう来たな。」

私には施設に入っている92歳のひいおばあちゃんがいる。認知症で、すぐに忘れてしまうけれども、会いに行くたびに涙を流して喜んでくれる、優しい人。私も、そんなひいおばあちゃんに会うのがうれしくて、ひいおばあちゃんと、心と心のつながりを大切にしている。

しかし、以前の私にとってひいおばあちゃんとの時間は、こんなにも温かいものではなかったかもしれない。ひいおばあちゃんは好きだけれども、ひいおばあちゃん以外の高齢者の方は好きではない自分がいた。のろのろしているな、何度同じことを言うのだろうか、どこか冷たい見方をしていた。私は人を差別していたのだ。

あるとき、私に転機が訪れた。6年生の総合的な学習の時間に行ったお年寄りの方との交流会。準備からとても大変で、ゲームで使うもの、

園生涯学習課 TEL 22-6845

プレゼントなども一から作った。

いよいよ当日。私は嫌々参加した。しかし、お年寄りの方が、ゆっくりにでも、一生懸命頑張っている姿を見たら、なぜか応援したくなった。

「頑張って、あとちょっと。」

私が応援すると、おじいさんがニコツとほほ笑んで、うなずいてくれた。私の心がドキッと動いた。ものすごい力だと思った。たった一つの笑顔で、人の心を動かしたのだ。

この出来事がきっかけで、私は福祉に興味を持ち、夏休みの研究の題材とした。山県市内を視点とし、多くの老人福祉施設などを回った。最初に行ったのは、山県市の高齢化社会の現状調べ。地域、年代、過去、岐阜県、日本とさまざまな種類で高齢者の人数を調べ、比較した。そこで、日本全体で高齢化社会が進んでいることを知った。

次に、山県市が行っている高齢化社会への取り組みを知る。山県市にはどんな取り組みがあるのか、市役所で情報を得た。老人福祉施設、介護予防教室の2種類があった。山県市の福祉制度が整っていること、取

り組みを互いに広め、知っていくことが大切だと実感した。

そして、同じ山県市民として高齢者に対して、私にできることを考えた。

一つ目は、山県市への福祉制度を広めること。

二つ目は、年齢に関係なく、健康づくりをすること。

三つ目は、家族や地域の方とのふれ合いをすること。

この三つは私だけでなく、誰にでもできることだ。この研究をし、福祉は誰の身近にもあり、考えていかなければならないものだと分かった。これからの未来を作っていくのは、私たち。次の時代を担う一人としてたくさんの方との心をつなぎ、笑い声が絶えない町づくりをしていくことが私たちの責任だと思った。

私は一年間でお年寄りの方との関係を作ったり、心をつなぐことができたと感じる。何より、お年寄りの方を好きになれること。これは私の人生にとってかけがえのないこととなった。それはなぜかを考えてみた。そして、心をつなぐ心をつなぐを創ったからだという結論に至った。つながりにはいろいろある。言葉のつながり、それは会話。表情のつながり、それは感情の伝え合い。手と手のつながり、ぎゅっと握りてく



れた手から感じる、生きることの力強さ。情報のつながり、それは知りたい情報がすぐに手に入るSNSやインターネット。いろいろなつながりがある中で、人と人が共に生きていくためには、どんなつながりが本当に必要なのだろうか。

情報化社会で、インターネットやスマートフォンでつながっているけれども、形だけのつながりではなく、今本当に必要なのは心から相手のことを思いやれる人と人との心のつながりなのではないか。この心と心のつながりがあれば、差別や偏見はなくなり、みんなが共に生きる社会になるだろう。それを私は願っている。

「ありがとう。」でつなぐ絆
 素敵すてきな未来を

高富中学校3年 杉山奈央莉

「ありがとう。」と言っていますか。
 「ありがとうございます。」と言っていますか。あなたの感謝の気持ちは、伝えたい相手の心に、確かに届いていますか。

私の家では、朝起きるといつも、食卓に私の朝食が並んでいます。家に帰ると必ず祖母が居て、「お帰り。」と声を掛けてくれます。仕事で疲れていても、父は週3回、塾への送り迎えをしてくれます。母も夜遅くまで、私の話を聞いてくれます。全てが当たり前のように過ぎていく私の一日。でもその生活は、私の家族に、支えられているのです。

私には15歳年上の姉がいます。今年の3月、その姉に子どもが生まれました。生まれてきた私の姪ひな、おなかですいたら大きな声で泣き、ミルクをもらい、眠る。3時間おきにこの繰り返し。自分では何もできない姪。姉は文句や愚痴を言うこともなく、ただ笑顔で昼も夜も3時間おきに姪にミルクをあげていました。

祖母と母の、「奈央ちゃんも、た

くさんミルクを飲んだね。」という会話。私は、目の前の小さな姪と自分を重ね、生まれてから15年間、家族に大切に育てられ守られてきた「自分」に気付きました。そして今まで家族だから「当たり前」という言葉で片付けてきた自分、家族に「ありがとう。」と言えなかった自分が恥ずかしくなりました。

その翌日、いつものように迎えた朝、私は台所に立つ祖母に、思い切つて、「ありがとう。」と言ってみました。突然の私の言葉に驚いたような祖母。何も言葉は返してくれませんでした。祖母の顔は思いつきりの笑顔でした。

夜遅くまで私の話を聞いてくれた母にも、「ありがとう。」と言ってみました。返ってきた母の笑顔も最高でした。家族を笑顔にする言葉、「ありがとう。」思い切つて家族に感謝の気持ちを伝えた私の心も、今までで一番の笑顔になれたような気がしました。

家族に支えられている私、でも私を支えられているのは家族だけではありません。学校へ行けば楽しい授業をしてくれる先生がいます。悩んでいる私の相談に乗ってくれる友達もいます。小学生の時には、朝早くから登校の安全を見守ってくれた見

守り隊の方、米作りや地域の歴史について教えてくれたたたくさんの地域の方もみえました。今までも、そして今も、私は家族だけではなく、私が生活するさまざまな場面で、たたくさんの人に支えられて生きてきたのです、生きていくのです。

支えられているのは私だけではありません。皆さんの生活も、あなたの家族、そしてあなたの周りのたたくさんの人に支えられているのです。支えられてきたのです。

皆さんは、気付いていますか……。そして、そんなたたくさんの、あなたを支えてくれた人、支えてくれてる人に「ありがとう。」と言っていますか。言えていますか。あなたの感謝の気持ちを、相手の心に、確かに届けていますか。

人が人を思いやる気持ちからとる、「あたたかな行動。」そして、人が人に感謝の気持ちを伝える「ありがとう。」という言葉。人を思いやる行動は人と人との心をつなぎ、そこに絆が生まれます。そして、そこで伝える「ありがとう。」が、そこで生まれた絆を強くし、その先の未来へとつなぎます。人と人との間で繰り返し交わされる「あたたかな行動」と「ありがとう。」その二つが生まれた絆をさらに強め、広げ、全ての人が

笑顔で暮らせるあたたかな社会を繰り出す力になると、私は思います。私とあなた、あなたとあなたの周りの絆が繋がれば、大きな大きな絆、優しさにあふれるあたたかな社会がきっと生まれるはずですよ。

「ありがとう。」という素敵な言葉でつなぎましょう「絆」、創りましょう笑顔あふれる素敵な家族、素敵な社会、そして素敵な「私たちの未来」を。さあ一緒に「ありがとう。」

